

福島復興 見栄え優先

標題は朝日新聞 5 月 21 日朝刊「長期政権の磁界 2」。昨年 6 月の福島第一原発視察を思い起こしながら記事を読んだ。途中まで紹介したい。

世界最悪レベルの事故を起こした東京電力福島第一原発。4 月 14 日、メルトダウンした 1～3 号機から 100 ㍍ほど離れた海拔 35 ㍍の高台に安倍晋三首相は防護服とマスクをつけず、スーツ姿で車から降り立った。東電側から廃炉作業の現状について説明を受けた首相は「防護服に身を固めることなく、スーツ姿で見られるようになった。着実に廃炉作業も進んでいる」。視察後の作業員らとの懇談でも「5 年前に視察した時は防護服に身を固めた。今回はスーツ姿で視察ができた」と繰り返した。

5 年半ぶりとなる原発視察。首相周辺は、防護服やマスクをつけない姿をメディアに取り上げさせることで見栄えを良くし、「復興の進み具合をアピールすること」を狙ったと認める。だが、1～3 号機周辺の屋外で、防護服とマスクを付けないことが許されるのはバスの車内と視察用の高台だけで、高台視察は 6 分ほど。高台の放射線量は毎時 100 マイクロシーベルト超と高く、長居は許されない。スーツ姿が可能になったのは、飛び散った放射性物質が舞わないように地面がモルタルなどで覆われたことが主因で、廃炉作業の主眼である燃料デブリは炉心に残ったまま。周辺の線量は極めて高く、取り出し方法すら決まっていない。首相が 2013 年の東京五輪・パラリンピックの招待演説で「アンダーコントロール(管理下にある)」と安全性を強調した第 1 原発の汚染水やその処理水は減るどころか、いまなおたまり続けている。

復興の進み具合を示すデータとして政権が用いる数字に避難者数がある。昨年 4 月、首相は国会で避難指示の解除が進んだことで、「避難者の数もピーク時の 3 分の 1。復興は着実に前進している」と語った。今も避難指示が出ているにもかかわらず、「避難者」として数えられていない人たちがいる。「統計から外される避難者たち」である。

写真は昨年 6 月 25 日、宮本憲一先生ご夫妻やゼミの仲間と福島第一原発を視察したとき。爆発した原子炉建屋前などで東電社員から説明を聞いた。写真の左は安倍首相も説明を受けた高台から、事故現場を呆然と眺める私。



安倍首相はスーツ姿だったが、私たちは防護服やマスクをつけて視察した。これでも重装備から軽装備になったそう。でも、1 号機や 2 号機の近くをバスで通ったとき、バスの車内で測定していた放射線量が急上昇したのが忘れられない。原発はまだ生きていることを実感した。「福島復興 見栄え優先」では、済まされないのだ。

(2019 年 5 月 25 日)